豐まりで要す一賣は他がモ美ののド身が指常モ女ま中まはスき裝またな店だか 時の高等ン術多皮のベ具、輪ャンの及業米にマをに使う貴。ドエラ革なツ、ド最にび國を「見・ 節を最に中なと カ の絶ちる揃えのら僅え多な法はな指常藝は製造ゲー金え入い大き腕を著すり せ設式は現れて も輪か品な品な 流、銀きり闘を時と名に感な現な備や構ま代に理りす をかれる萬を實法許多心を計に各でを代だ一へ の設まの 週を金まけは 著ま商業ら 入い年を石ま婚にを を 月で名にふ置きれ筆が入いお持い始に社よへ、氣・明まあ 品は間なをて 朗るの店に廿に のあ 、物は、新たりよ 物は父養支しあ 拂景時≠ あ 信は計はダ 般だセストク 帶が型然各なびダ 拂きる は りは 床を皮なっ種は結ちて節を等をと、装み婚えて 而よ何ら月さる。か 用き其をイ 男だ懐語店でる付き器・え華が石をいる らル 與差選だり もれ 賦べ必らら 販にの ア



活象ナ店をラ賣に時の面にライ寶は一年だは にをナを代めず 1 石黄氏 上時 馬 流。有らイ開かに有らオザ以いで計に生 行うし島と始し先き望う等も 外をあ の洗法に ラしんな 3 レ最まナ手でじるス近れ一度なてを 家・濯たも 庭に機・ノ 江スをイ く其き看な電影 益等店だで なくをは 商等の取る氣●ビ ヂ 氏しむ 町装 賣は特だす器・ク し約さる 具、夕蔵が時と村を三 展え業はへに 、販生や方は「 庫・計は金ま十

と 尚の引きをしれ 感沈へ 江を運ぎメ 記・ほ 立を喜きくれ 謝いる 村をびり の日かか 呈に米に買な間ならす。」と、一國で上を中等に 念な今えをを回る希 びと 奉言及言すに氏してカ 仕しびる當意は至なし、業に創まれ 々くげに すオ 九衆かのふ L とり 創まつ質は に 貯まは 弗だ日にね 開於と てるア共多な業はた石ま市しし 明秀業はの居を機制フ に年記三も商等の ス割けた土と廿 事をり會なの新るの十の會な中まホ K *を人だし御き周らでの心とノ、年を性だ 営をで 居かり相常信味を日常りある一得を士しく愛恋年記の開於部まれたではる。 當な以いで 水調をる 層またに ホ 顧らをる 業はに ル 営業着をがを す 上景四 水の 悪に親よりを 迎家、の ア 進むり 眼光

一会へる(寫眞は江村金一氏) お書スタンプを進呈するもので素晴しい大特價提供と

-



實演 艺

以う石を近る其が決ら年に川が用くいまり不る法語解する

JA-7173,003

小議會が干渉

記・賣うに さ 録を上調がれ のさる ~ 12

舌證言を續

議者商等明秀

2 6 194 温 小貴